【授業科目】微生物学　Microbiology

担 当 教 員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
森 啓至、井上 孝	1年次 前期	必 修	1	15	講 義	あり	巻末 掲載	可

授業概要 （内容と進め方） 及び課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／細菌や真菌などの微生物は人類と共存し生命活動に必須である。微生物は健康や生命を脅かす病原微生物として、感染症をはじめとする様々な疾患の原因となる。また身体に侵入した病原菌が原因となるだけでなく、免疫機能が衰えることで身体と共存している常在菌が疾患の原因になることもある。自然界には無数の微生物が存在するが、本講義では特に人間に関係する微生物について、その分類、構造、代謝、基本的な性状、疾患との関わりについて教授する。本講義では微生物検査学に繋がる基本的な事柄について講義する。 ＊実務経験を持つ教員が授業を進める。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／適宜実施する課題については模範解答を解説する。提出されたレポートについては解説し、コメントをつけて返却する。
実務経験に関する 授業内容	大学病院細菌検査室、医学部微生物学講座等での実務経験を有する教員が、その経験を通して得た知識を織り交ぜながら、微生物に対する基本的な内容から、感染症に関するエピソードなどを交えて講義する。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達 すべき目標）	①微生物の基本的性質について説明できる。 ②微生物の滅菌方法と消毒方法について説明できる。 ③微生物薬の種類について説明できる。
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	教科書や講義に用いた配付資料等を復習し、要点をノートにまとめること。受講にあたり、60分程度の予習と90分程度の復習を行い積極的に取り組むこと。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください
授業計画	第 1 回　微生物の種類、細菌の形態と構造、細菌の代謝と発育 第 2 回　感染と発病① 感染の概念、生体防御、発症 第 3 回　感染と発病② 日和見感染、感染経路、病原性 第 4 回　常在細菌叢 第 5 回　滅菌と消毒 第 6 回　化学療法の概念，種類と作用機序，薬剤耐性とは，薬剤感受性試験 第 7 回　病原真菌の分類と特徴，病原真菌の検査方法 第 8 回　微生物検査における検体と取り扱い 1～7回 井上 8回 森
評価方法 評価基準	成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 定期試験 80%　授業への取り組み20%
教科書	『最新臨床検査学講座 臨床微生物学』 医歯薬出版株式会社 ※1年後学期「微生物検査学Ⅰ」で使用するものと同じ
参考書等	「標準微生物学」　医学書院
学生への メッセージ	微生物学は理解すべき事柄に加えて、微生物の名称や培地名など専門用語が多く、それ以外にも微生物の性状など覚える項目が非常に多い。そのため講義後の復習は必須であり、教科書や問題集等を使い繰り返し学修することが大切となります。復習は授業内容を忘れないよう、授業のあったその日のうちに行うことが大切です。